

専門適性検査 (150 分)

(デザイン・建築学課程)

〔注意事項〕

1. 監督者の指示があるまで、この問題用紙と解答用紙を開いてはいけません。
2. 問題は、12 ページからなっています。また、画用紙の「図画提出用紙」は 1 枚、「論述用解答用紙」は 4 枚、下書用紙は 3 枚あります。監督者から解答開始の合図があったら、問題用紙、「図画提出用紙」、「論述用解答用紙」、下書用紙を確認し、落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
3. 「図画提出用紙」には、受験番号を記入する欄が 1 箇所、「論述用解答用紙」には、受験番号を記入する欄が 2 箇所ずつあります。監督者の指示に従って、選択した問題（「実技問題」または「論述問題」）のすべての解答用紙（「図画提出用紙」（1 枚）または「論述用解答用紙」（4 枚））の受験番号欄に受験番号を必ず記入しなさい。
4. 解答は、必ず「図画提出用紙」または「論述用解答用紙」の指定された場所（問題番号や設問の番号・記号などが対応する解答欄の中）に記入しなさい。なお、指定された場所以外や、裏面への解答は採点対象外です。また、解答や受験番号が判読不能の場合にも、採点対象外になります。
5. 次ページ以降の問題の中から、☐Ⅰ実技問題 または ☐Ⅱ論述問題 のいずれかを選択しなさい。
6. ☐Ⅰ実技問題 を選択する場合には、「図画提出用紙」に解答を描きなさい。
7. ☐Ⅱ論述問題 を選択する場合には、「論述用解答用紙」にそれぞれの解答を書きなさい。
8. この問題用紙の白紙と余白は、適宜下書きに使用してよろしい。
9. 解答用紙（「図画提出用紙」・「論述用解答用紙」）は、持ち帰ってはいけません。
10. この問題用紙と下書用紙は、持ち帰りなさい。

I 実技問題

屋外で「暑さ対策」に用いるモノを3つ、写実的に描きなさい。

＜条件＞

1. 人物を描かないこと。
2. 文字等で説明しないこと。
3. 図画提出用紙のタイトル欄に作成した絵の表題を記入すること。
4. 鉛筆（黒）のみを用いること。
5. 定規やコンパスを使用しないこと。
6. 図画提出用紙は受験番号欄を右にして横長に用いること。また、点線から右の部分に描かないこと。

（以 上）

Ⅱ 論述問題 その1

(配点率 40%)

以下の文章を読み、問1～3に答えなさい。

著作権の関係で掲載していません。

著作権の関係で掲載していません。

著作権の関係で掲載していません。

【出典】

久野愛『感覚史入門—なぜプラスチックを「清潔」に感じるのか』(平凡社、2025年) pp. 92～99 (※出題の都合上、一部変更を加えている箇所がある。)

- 問1 セロハンが普及する以前と以後とでは、消費者の商品選択にどのような変化がみられたか。本文に即して、次の表を完成させなさい。それぞれ25文字以内であれば文字数は問わない。

	セロハン普及以前	セロハン普及以後
重視される感覚	①	②
包装の役割	③	④

- 問2 セロハン包装の普及と、セルフサービス式店舗の拡大はどのような関係にあったか、図を用いて整理しなさい。図には、以下の語句を必ず含めること。

- ・セロハン
- ・セルフサービス
- ・視覚
- ・触覚
- ・嗅覚
- ・消費者
- ・商品

- 問3 本文での包装用フィルムの発明と普及が例示するように、ひとつのモノの発明が別のモノや仕組みへと影響を与え、やがて社会を大きく変えることがある。あなたが知るそうした事例を挙げ、何の発明が間接的にどのように社会を変えたか 300文字以内で説明しなさい。

(続 く)

Ⅱ 論述問題 その2

(配点率 30%)

以下の文章を読み、問1～3に答えなさい。

自然の条件が人間の活動を規制し、人間は自然を改変する。この人間と自然のかかわりかたのなかで、技術が生れる。この本で事例としてあつかつてきた社会は、いずれも人間の側からの自然への働きかけの要素が、比較的弱い段階のものであった。いいかえるならば、自然の改変のために投じられるエネルギー量のすくない社会である。

圧倒的な自然に立ちむかうとき、そのなかで人間がうまく生活していくために、2つの方法がある。ひとつは、自然のなかから人間に住みやすい環境をえらびだしたり、人間に必要な物資をえらびとること―選択である。もう一方のやりかたは、自然に応じて人間のくらしかたを変え、自然の用意できる範囲内の物資で一応不自由なくすごせるようにすること―適応である。選択と適応は、車の両輪の関係にあり、それをつなぐ車輪にあたるものが技術と生活様式である。選択も適応も、その社会のもつ技術のレベルに応じてなされるのである。技術は、その社会に一般的な生業経済の運営システムである生活様式に対応関係をもっている。

住居に関していえば、一般に自然の選択におけるもっとも重要な要素は、住居の立地条件としてあらわれる。1軒の住居を建てる場合にも、地形や水場までの距離など、細かい立地条件に関する配慮がなされるが、まず、住居の地域的集合体である集落レベルや、同質の社会や文化をもつ人びとの集合体である部族のレベルにおける選択がなされて、自然の中のある条件をもった土地を大きなグループで先取りしてしまう。グループの占有する住地のなかで、さらに細かなレベルの立地条件が吟味されて、1軒の住居をどこに建てるかが決定されるのである。もちろん、あるグループの居住する地域がきまってきた実際のいきさつを調べれば、かならずそこには先駆者なり、草わけとみられる者の住居があり、1軒がまずどこかに建てられたはずなのである。しかし、巨視的にみれば、歴史的にあるグループの住地が一定地域に安定し、そのグループの居住地が所与のものとしてある、と考えてよいのである。

さきにみたように、西イリアンの中央山岳地帯の山地パプア諸部族の住居は、標高1,500～2,200メートルのあいだに分布する。居住高度の上限は、植物の垂直分布に規制され、下限はマラリアの発生によって規制されているのである。

マンゴーラ村の場合でいえば、図式化すると、部族の住地は村の中央を流れる水路からの距離によって定まる。水路ぞいの地帯は耕地として使用され、そこ

には農耕民であるスワヒリの家屋が建てられる。スワヒリの居住地帯の外側には、半農半牧の生活様式をいとなむイラク族が居住する。さらに水路から遠ざかった乾燥したサバンナのなかに牧畜民であるダトーガ族が居住する地帯となっている。そして、人手の加わった土地を離れた山間部は、狩猟採集民であるハツァピ族が、けだものやハチミツを求めて遊動する場所となっているのである。

このように、生活様式の差およびそれに対応する技術体系の差によって、異なる自然の選択がなされるのである。同じことは、メガルハ族においてラクダ放牧にしたがう者が砂漠に居住し、農耕をいとなむ者がオアシスに居住する、という現象についてもあてはまるのである。

自然に対する適応の問題は、集落レベルよりももっと個別的なレベル—1軒の家屋のつくり方にも端的に表わされる要素がおおきい。

たとえば、家屋の向きについて考えてみよう。マンゴーラの家屋では、乾季の強い東風をさけるために、家屋の西側にあたる部分には出入口、窓をつけないのがふつうである。トンガ人の伝統的な家屋であるファレ・ファカタでは、だ円形プランの長軸が南東と北西をつなぐ方向軸にそうようにして建てられる。だ円形プランの両側につけられた出入口を明けはなっておいたら、南東貿易風が家屋の中を通りすぎるように考慮されているのである。昼夜の温度差のはげしい砂漠の気候に対応するために、メガルハ族のベイト型式の家屋は厚い日乾レンガづくりとなっている。厚い土壁が、昼間の暑さを防いで涼しく、夜間は室内を温かく保つ、メガルハ族のテント生活者では、寒い砂漠の冬には熱吸収率のよいラクダの毛で織った黒褐色の布をテントの屋根とし、夏には羊毛製の白色の布を使用して日光を反射させる。

年中降雨があり、植生の被覆しない土地は泥沼と化する西イリアンの山岳地帯での住居は、高床あるいは2階建てになっており、人間は乾燥した床面で寝る

サバンナのただなかに居住するダトーガ族の家屋の高い垣は、家畜がこいであるとともに野獣や外敵からの防御の役もかねているし、ハツァピ族は、その粗末な小屋がけの入口の部分で、野獣と虫よけの火を終夜たいて寝るのである。

自然に対する適応は、家屋の形態や機能に影響をあたえるばかりではなく、家屋の建築材料にも関係をもっている。わたしの事例としてとりあげた社会の多くは現金経済、物質の流通機構の発達していないものであった。家屋づくりは専業の建築業者の手によるものではなく、家を建てようとする者が手づくりするのである。家屋を建てるために、ほとんど現金を必要としない社会のはなしであった。その伝統的建築材料は、すべて土地産のものである。しかも、人力で運搬できる範囲の自然にみいだされる物質を利用して用材とするのである。砂漠では、土、あるいは遊牧する家畜の毛を手織りにした布の家屋、熱帯雨林のなかでは木と草の家屋が建てられるのであった。このような材料に対する適応が、一

方ではその社会の技術体系にも影響をもたらしているのである。

ここで述べたことを、いますこし図式的にまとめておこう。自然環境は大きく分類すると、植物相、動物相、地理・地形・地質など、気候の四つの要素から構成されている、といえよう。住居および集落は、環境を構成する諸要素と、選択、適応の関係をもちながら自然との対応関係を保つのである。その対応関係は、技術および生活様式をフィルターとして中間に置くことによってなされている。ただし、環境決定論的立場との誤解をうけぬようにことわっておくと、自然は住居や集落の性格づけをする諸要素の1つにしかすぎない。①ほかに住居・集落のタイプに大きな影響をあたえる要素として、社会と文化があり、技術と生活様式も社会と文化のサブシステムとしての影響をうけるし、社会と文化それ自体が直接住居・集落を支配する力ももっている。また、社会と文化が技術と生活様式を媒介として自然環境自体を変革するのである。そして社会や文化と自然に歴史的变化を投げかける時間および、地球上に同時的にさまざまな変化形を用意する空間という要素が考えられる。住居・集落のタイプは、これらの諸要素が有機的に結合したシステム系と考えることができよう。238 頁に②自然と住居の関係を主とした図式をあげておいた。ここで、一応、社会と文化ということであいまいにしておいたレベルについては、のちにのべることにしよう。

【出典】

石毛直道『住居空間の人類学』（鹿島研究所出版会、1971 年）pp. 234～239

（＊出題の都合上、一部変更を加えている個所がある。）

- 問 1 社会人類学者である筆者が本書で扱っている世界の住居や集落の事例は、どのような共通した特徴を有しているか、また、そのような事例を数多く扱っているのは、本書で筆者がどのような視点で住居の理解を深めようと考えているからか、300 字以内で説明しなさい。
- 問 2 下線部①にある「ほかに住居・集落のタイプに大きな影響を与える要素として、社会と文化があり」とあることに関連し、以下の文章を参照しつつ、民族や地域による住居の形式、習俗、間取り等の相違を示す対照的な事例を取り上げるとともに、その背景を 400 字以内で論じなさい。

著作権の関係で掲載していません。

【出典】

大河直躬『住まいの人類学 日本庶民住居再考』（平凡社、1986 年）pp. 7～8

問 3 筆者が下線部②で示した図式である図 1 の各アルファベット部分に入る言葉はそれぞれ何か。以下に挙げる選択肢から正しい番号を選びなさい。

<選択肢>

- ①適応・選択 ②自然環境 ③生活様式 ④技術 ⑤住居・集落
⑥社会・文化

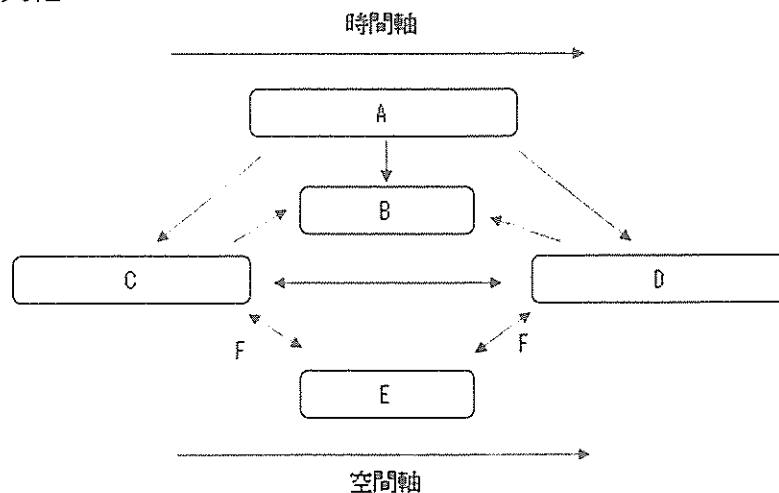


図 1 下線部②の図式

(続 く)

Ⅱ 論述問題 その3

(配点率 30%)

下の絵は、葛飾北斎による「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」と題された絵である。これに関して以下の各設問に答えよ。

図1は著作権の関係で掲載していません。

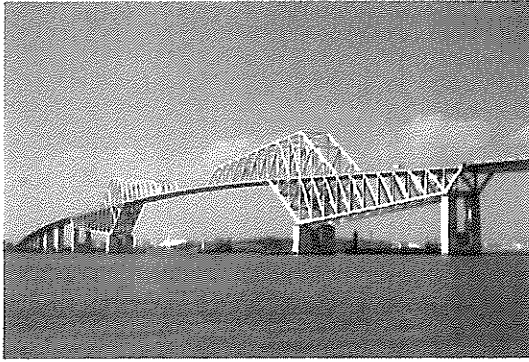
問1 何年頃に描かれた絵であるか、最も近いと考えられる年を①～④の中から選び番号で答えよ。

- ① 1530 年
- ② 1630 年
- ③ 1730 年
- ④ 1830 年

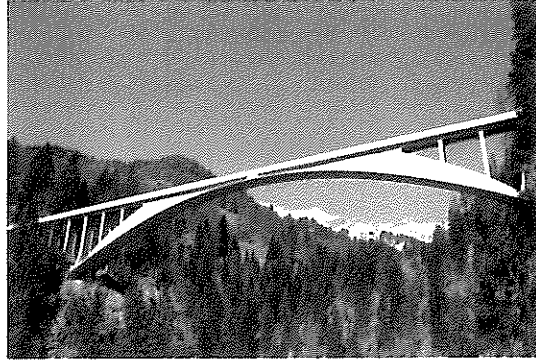
問2 この橋が存在した（または、その位置に最も近い）と考えられる都道府県名を①～④の中から選び番号で答えよ。

- ① 大分県
- ② 大阪府
- ③ 岐阜県
- ④ 秋田県

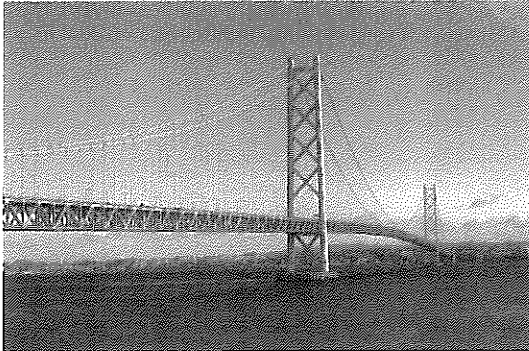
問 3 この橋の構造原理と最も近い原理で作られた橋を①～④の中から選び番号で答えよ。



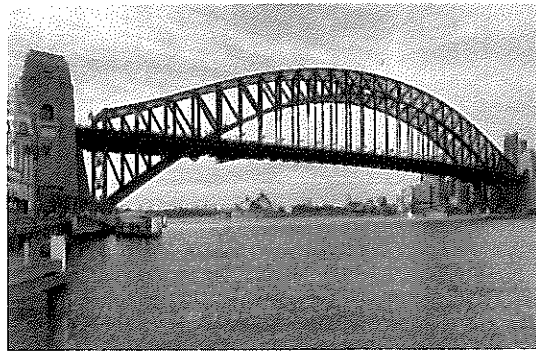
① 東京ゲートブリッジ



② サルギナトベル橋



③ 明石海峡大橋



④ シドニー・ハーバーブリッジ

問 4 この橋を、絵と同様に、二人の人物が渡っていたとする。左の人物の体重を W_1 (N)、右の人物の体重を W_2 (N) として模式的に描くと、図 2 のようになり、この状態で静止する瞬間があった。このとき W_1/W_2 の値について導出過程を示しつつ答えよ。なお、この間においては、橋の自重による影響は無視して考えてよい。

(図 2 内の点線は水平を示す補助線で、橋の構造には無関係である)

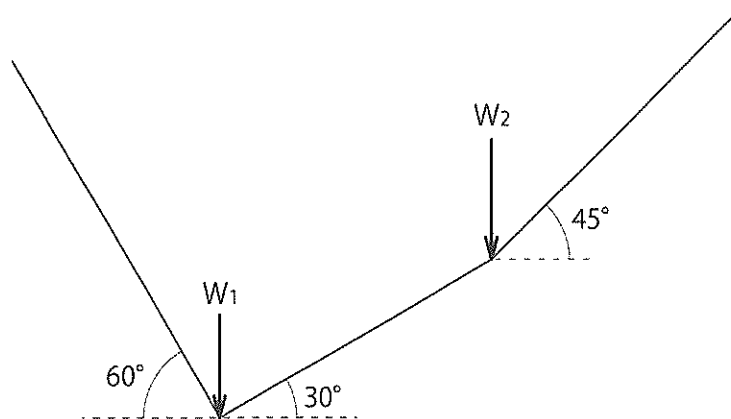


図 2

問 5 この絵には、手前に山が描かれており、橋の端部の様子が正確に描かれていない。あなたがこの橋を設計するものとして、この橋の端部はどのようなになっていないといけないう、理由を 75 字以内で述べつつ、スケッチせよ。

(この時代に入手不可能な素材を用いてはならない)

問 6 この絵には、人物が二人描かれているが、誰も通行していない(＝人や動物の重さが橋に作用していない)ときに、この橋はどのような姿となっているか、理由を 75 字以内で述べつつ、スケッチせよ。この時、橋には一様に分布する自重のみが作用しているものとして答えること。

(背後の山や木々を描く必要はない)

【出典】

図 1 : すみだ北斎美術館ホームページ

<https://hokusai-museum.jp/modules/Collection/collections/view/53>

より (2026 年 6 月 11 日参照)

問 3 の①の写真 : セントラルコンサルタント株式会社ホームページ

<https://www.central-con.co.jp/projects/東京ゲートブリッジ基本設計・主橋梁部細部設計/>

より (2026 年 6 月 11 日参照)

(以 上)